

温暖化ガス 荏原55%削減

荏原はESG（環境・社会・企業統治）に関する取り組みを報告する「2022年E

スコープ1+2、30年に18年比で



浅見正男社長は省エネなどに力を入れる方針を示した

SG説明会」を開いた。開催は4回目となる。温暖化ガスの排出削減について、自社と直接取引先に限る「スコープ1+2」で30年に18年よりも55%減らす目標を掲げた。

企業が排出する温暖化ガスは自社のオフィスなどから出る「スコープ1」と自社で使う電気などに由来する「スコープ2」、サプライチェーンで取引先が出す「スコープ3」に分類される。

荏原は「スコープ1+2」の削減に向けた具体策として、国内の拠点到太陽光発電の設備を配置する。このほか外部からのグリーン電力の調達やオフィス・製造設備の省エネ施策の推進などで、30年には温暖化ガスを18年と比べ

て55%減らすことを目指す。スコープ3については省エ

ネ製品の開発や温暖化ガス除去製品の販売、水素関連の技術確立などを進める。これにより30年には「何もしなかった場合」に比べて温暖化ガスの排出を1億ト削減する。50年にはカーボンニュートラルの達成を目指している。

荏原は15年に指名委員会等設置会社に移行した。19年から社外取締役が取締役会の議長を務める体制になり、足元の審議事項数が増えていることなども説明した。
(末藤加恵)